

## ○ 委員長報告

12月定例本会議で報告された経済企業委員長報告は、以下のとおりです。

平成26年12月定例会

### 経済企業委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、創業・ベンチャー支援についてであります。

このことについて一部の委員から、民間団体等との連携も含め、今後、本県の創業・ベンチャー支援にどう取り組んでいくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県では、これまでえひめ産業振興財団等を通じた資金面や手続き面などの支援を行ってきたが、先輩起業家との意見交換やアドバイスを貰える機会が欲しいといった創業希望者等からの要望も踏まえ、昨年10月に県内起業家の有志を中心に設立された「エヒメ・ベンチャー・ネットワーク」とも連携しながら、創業支援に取り組んでいる。

今年度は、「エヒメ・ベンチャー・ネットワーク」が実施した、県内の先輩起業家と起業に興味を持つ学生や社会人による座談会の開催や、学生等が作成したビジネスプランをプレゼンテーションするイベントなどへの支援を行ったところである。

また、県では、現在、「スゴ技」データベースのベンチャー編として、「愛媛のスゴVen. (ベン)」データベースの整備に取り組んでいるところであり、完成後は、県内ベンチャー企業支援のツールとして活用していくこととしている。

今後とも、民間団体の活動支援や県内ベンチャー企業のマッチングなど、一人でも多くの起業家が生まれ、地域経済の活性化につながるよう努めていきたい旨の答弁がありました。

第2点は、医師不足についてであります。

このことについて一部の委員から、臨床研修が義務化されたことが医師不足の原因といわれているが、中央病院の今年度の臨床研修医のマッチングの状況はどうか。また、臨床研修医の確保に向けた取組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、平成27年度に研修を開始する臨床研修医のマッチングについては今年10月に発表があり、県立中央病院は14人で昨年度と同数であった。研修医が病院を選ぶ重要なポイントは、「研修プログラムの充実」や「症例を多く経験できること」と言われていることから、患者数や救急診療

件数、指導医が多い等、県立病院で研修を行う利点のアピールに努めるとともに、研修会や講演会を多数企画し、研修内容の充実を図っている。

こういった県立病院での研修の良さを学生間の口コミやインターネット、合同説明会を通じ伝えていくことが重要と考えており、引き続き、臨床研修医の確保に積極的に取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第3点は、認知症患者への対応についてであります。

このことについて一部の委員から、県立病院では、専門の看護師が認知症患者への対応に取り組んでいると聞かすが、現状はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県立病院でも患者の高齢化が進んでおり、認知症患者は増加傾向にある。転倒・転落の危険や徘徊、意思疎通が困難といった問題を抱えた入院患者は、看護師が常駐するスタッフステーションから確認しやすい場所に配置し看護師や補助職員が見守りしているほか、患者がベッドから離れた場合に確認できるセンサーなどを設置して対応している。

また、認知症患者や家族に対する理解を深め、看護の質の向上を図るため、認知症看護認定看護師が講師となって、認知症のある患者の看護をテーマとした研修を4病院の合同研修として開催しているほか、今治・新居浜病院では、認定看護師がスタッフへの指導や相談に対応しており、今後は4病院全てに認定看護師を配置できるよう認定看護師教育課程への派遣を計画している旨の答弁がありました。

このほか、

- ・訪日外国人旅行者の動向と受入れ拡大に向けた取組み
- ・中小企業に対する金融支援
- ・今冬の電力需給見込みとその対策
- ・公営企業管理局の再任用職員の状況

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。